

07

研究業績

07

李善姬

【論文】

「場所名詞句との結合頻度に現れる韓国語の移動動詞の語彙的な意味の特徴」明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』第15巻（2021年3月掲載予定）

塩谷 祐人

【著書】

永井敦子・畠山達・黒岩卓編著『フランス文学の楽しみかた』、(ミネルヴァ書房、2021年3月刊行予定)

担当箇所：「ヨーロッパのフランス語圏文学」(p.156-159)

【翻訳】

ミシェル・ビュートル『レペルトワールI』(石橋正孝監訳、幻戯書房、2021年1月刊行)

担当箇所：「バルザックと現実」(p.90-105)

黒川 貞生

【論文】

坂本慶子、亀ヶ谷純一、森田恭光、黒川貞生、杉崎範英、諏訪間恵美、榎本翔太、大学生の体力とゴルフ実習における主観的疲労。日本スポーツ健康科学誌、7巻、2020（印刷中）

Rika Nagamine, Akira Takano, Tomoyasu Kamiya, Kinya Takagaki, Satoru Suzuki, Sadao Kurokawa. The Effect of Food Containing Pueraria Flower Extract on Energy Metabolism: –A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Parallel-group study–, Japanese Pharmacology & Therapeutics 48(5): 835 - 841, 2020

篠崎 美生子

【著書】

王書瑋編『日本近代知識人が見た北京』分担執筆「日本近代文学と北京—「未発の可能性」を探して—」三恵社、2020年

施小焯編『谷崎潤一郎中国題材作品研究』分担執筆「「陰翳礼讃」—「われわれ」とは誰か—」華東理工大学出版社、2020年

久保朝孝編『源氏物語を開く—専門を異にする国文学研究者による論考五四編—』分担執筆「若菜下 やんごとなき人々の葛藤—女房革命が暴くもの—」武蔵野書院、2021年3月刊行予定

【論文】

「賀川豊彦『死線を越えて』の位置」『賀川豊彦学会論叢』2020年12月

【報告】

「◆三・一独立運動、五・四運動百年—2019年秋季韓国大会報告◆ ソウル大会を終えて—感謝と希望と—」『社会文学』52号、2020年8月

徐正敏

【著書】

『平和教育』（韓国語、共著）、ドンヨン出版社、2020年、47-88頁（全体292頁）

『他者の視線、境界線で読み』（韓国語、単著）、ソムエンソム、2020年、全体296頁

『日韓関係論草稿』（単著）、朝日新聞出版、2020年、全体250頁

徳間 晴美

【論文】

「日本語学習者の主体的選択に委ねられる敬語学習への向き合い方」『待遇コミュニケーション研究』第17号、52-67 2020年2月

【調査・研究報告】

「大学における正課外の日本語学習支援のあり方を考える ―日本語相談室の立ち上げと今後の展望―」明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』第15巻（2021年3月掲載予定）
執筆者：徳間晴美、山内薫

【学会発表】

「待遇コミュニケーションの観点を意識したビジネス日本語科目に関する考察 ―問題集を活用した実践を例に―」韓国日語教育学会・言語文化教育研究学会 共同開催2020年度国際学術大会（第37・38回）オンライン学術大会（2020年12月5日）

中野 綾子

【論文】

「〈国際会議報告〉ベトナム社会科学院社会科学図書館和古書コレクション（フランス極東学院旧蔵書）その課題と可能性 所蔵資料からみる日本研究の様相 ―洋装本の日本十進分類法（NDC）での分類から―」『リテラシー史研究』（14）リテラシー史研究会、2021年1月

【学会発表】

「社会科学院図書館和古書コレクションからみる日本研究の様相 ―洋装本の日本十進分類法（NDC）での分類から―」The International Conference “Ancient Japanese Book Collection of the Social Science Library-Issues and Potential-” (Vietnam Academy of Social Science Institute of Social Science Information) 2020年10月14日、オンライン開催

パネル発表「研究リソースの可能性を拓く ―『榛葉英治日記』調査から―」「榛葉英治「乾いた湖」の映画化と原作 ―映画と文学の生存戦略―」（パネル発表者：和田敦彦、河内聡子、田中祐介、デイスカッサント：康潤伊）日本近代文学学会2020年度11月例会、2020年11月28日、オンライン開催

【その他】

「陸軍恤兵部発行『陣中倶楽部』総目次および解題』『リテラシー史研究』（14）リテラシー史研究会、2021年1月

野副 朋子

【論文】

Wang, F., Itai, R. N., Nozoye, T., Kobayashi, T., Nishizawa, N. K., & Nakanishi, H., "The bHLH protein OsIRO3 is critical for plant survival and iron (Fe) homeostasis in rice (*Oryza sativa* L.) under Fe-deficient conditions." *Soil Science and Plant Nutrition*, 1-14., 2020.

野副 朋子 安部 淳、「植物の栄養獲得機構に関する実験実習」、明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』第15巻（2021年3月掲載予定）

【学会発表】

「都市型農業に適した小型植物工場における作物の鉄栄養に関する研究」、日本土壌肥料学会（2020年、岡山（オンライン開催））

「乾燥地でも生育できる作物の開発を目指して：ストレス特異的な根細胞内構造の解析」、The analysis of the stress induced cellular compartments aiming to generate the super crop for drylands 鳥取大学乾燥地研究センター令和2年度共同研究発表会（2020年、鳥取（オンライン開催））

山内 薫

【論文】

「大学における正課外の日本語学習支援のあり方を考えるー日本語相談室の立ち上げと今後の展望ー」明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』第15巻（2021年3月掲載予定）
執筆：徳間晴美、山内薫

【学会発表】

「日本語学習者の移動性からみる「学習と人生のつながりの軸」の形成」日本語教育学会大会

2020年度春季大会、一橋大学。(2020年5月31日)

【その他】

「ひとの生活と移動性を踏まえた「生涯にわたる言語学習」『生涯学習研究e辞典』
<http://ejiten.java.or.jp/content27520001.html> (登録年月日：2021年1月26日)

Elam, Jesse

【論文】

Promoting intercultural competence in the Japanese classroom. *Korea TESOL Journal* 16(1): 221–233, August 2020.

「The effects of policy and school structure on minority groups in the United States」
 Jesse R. Elam, Ryan L. Whitson 明治学院大学教養教育センター紀要『カルチュラル』第15巻(2021年3月掲載予定)

【学会発表】

Japanese university students' attitudes towards extensive reading in the digital age. JALT Yokohama TECH MyShare (Online). June 7, 2020.

◆上記のほか、所員の業績を、下記URLにて報告しております。
<https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?courc=270000>